

日経 21.8.4 付 「不可逆に近づく温暖化」(英 Financial Times のコラム) によると間もなく国連が地球の気候の現状に関する詳細な科学的評価報告書を発表する。

温暖化はこれ迄の様にヒマラヤ山脈の氷河や北極海の海氷といった人里離れた話ではなくなっている。ここ1カ月をみても気候変動の影響は顕著である。北米の熱波でカナダの村が50℃を観測し山火事で丸ごと焼け落ちた。ドイツは今迄に無い豪雨による洪水で右往左往。

従来、一般の科学者は気温・異常気象はなだらかに上昇・増加すると予測し、これ程過酷で突発的かつ頻繁に「非線形」なものになるとは観ていなかった。気候科学者はともすると、いたずらに人々の恐怖心を煽ると批判されて来た。

しかし此処に至って、一般の科学者もヤット引返せない転換点に来たことを自覚し、再生可能エネルギー、電気自動車等の脱炭素対策が進展する可能性が出て、微かな希望の光が見えて来た。

以上を我々に身近な植物、昆虫で比較するとヤシ科のシュロは平安時代に中国の亜熱帯地方から移入され生育地は温暖な九州に限られ、他の地域は寒い冬を越せず育たなかった。所が東京の国立科学博物館・自然教育園でも2010年には大量に生育中。小宅近隣の林にもここ20年、大增殖中で仲間を見つけると引抜いていますが、繁殖力が強く焼け石に水。またハイキング道で北上増殖中は湿潤亜熱帯性のマムシグサほか。

昆虫では昔はアブラゼミが多かったが、最近ではミンミンゼミ、南方からのシャワシャワと鳴くクマゼミが多い。蝶ではアサギマダラが北上し越冬も見られると言う？

また20年前には車のフロントガラスに氷が張り付き、お湯を掛けてスクレーパーで除去したが、10年程前から氷の張り付き経験なし。そう言えば雪も降らなくなった。

皆様の周辺での変化は如何でしょうか？



⇒



20.3.18 今泉台湖畔道路のシュロ (右側) 伐採前⇒伐採後のスッキリした面々



14.10~20.8 横浜自然観察の森でアザミに、また天園コースでもアサギマダラを発見